

府大環境デー・シンポジウム

～世界環境デーを考える～（概要）

- ◆日 時：2013年6月8日（土）13:30～16:30
- ◆場 所：大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス サイエンスホール(A12棟)
- ◆主 催：大阪府立大学(環境部エコロ助、E～キャンパスの会、里環境の会OPU、エコ・サイエンス研究所)
- ◆後 援：環境省近畿地方環境事務所、大阪府、堺市
- ◆連 携：堺エコロジー大学連携講座
- ◆参加者：77名（大阪府立大学及び他大学の学生・教職員、一般）
- ◆シンポジウムの概要動画：本学動画チャンネルにおいて「府大環境デー・シンポジウム」配信中



◆開会挨拶

大阪府立大学の奥野武俊学長より、開会挨拶として、今回のシンポジウムの開催に至る以下の動機等の説明がありました。

○1972年6月5日からスウェーデンのストックホルムで開催された国連人間環境会議を記念し、1972年12月15日に日本とセネガルの共同提案により、国連総会において6月5日が『世界環境デー』として制定されています。

○日本国内では、環境基本法第10条により同日を『環境の日』と定められていますが、日本での活動内容や認知度は低下しています。

○そこで、この世界環境デーを機会に、大阪府立大学では『府大環境デー』を定め、世界環境デーの主旨と認知度の向上を図るとともに、府大内の環境活動を行っている団体と近畿圏の大学が、より活発な意見交換または交流を図れることを目的にシンポジウムを開催することとしました。

○他大学にも同じような行動を起こすことを呼びかけ、活動の輪の拡大を期待しています。

また、UNEPのWEBサイトに動画を投稿するため、最後の5分間は英語で挨拶を行いました。また、挨拶の最後には、UNEPよりご返信いただいたレターを、大阪府立大学、環境部エコロ助の松田有祐様が英語で読み上げました。

[〈UNEPからのメッセージ〉](#)

[〈UNEP-IETCからのメッセージ〉](#)



大阪府立大学学長
奥野武俊



UNEPからの返信レターを読む
環境部エコロ助 松田有祐

◆基調講演

【社会システムにおける安心・安全・信頼 -食をめぐる事例として-】

大阪大学大学院 人間科学研究科 三好恵真子准教授

食の安全性というテーマについて、中国製冷凍餃子事件を題材に基調講演を頂きました。

私たちは日頃メディアの影響を強く受けています。中国製冷凍餃子事件の場合も同様で、特にこの事件においては、事件に対する中国政府の対応はあまり報道されない一方で、不安や不信感を煽る過熱報道がされ、冷凍餃子という商品だけでなく中国という国自体のイメージダウンへと繋がりました。

安全は科学技術の向上で獲得され得るものですが、人々の安心という判断基準は、心の状態を反映しメディアの影響も強く受けるため、必ずしも安全と安心は一致するものではないことが実感できました。

このような現状の中で、私達個人は自らが情報を取捨選択し安心安全の獲得に努めなければならないこと、さらに社会の構造としては安心・安全とともに、経済性と環境に配慮したシステム作りが求められていることが課題であり、その認識を広めていくことが大切になると思います。

[〈講演資料〉](#)



大阪大学大学院准教授
三好恵真子様

◆事例発表

大阪大学
環境サークル
GECS(ゲックス)
佐々木つぐみ様

GECS とは、Gaidai Eco ChallengerS の略で、2003 年に旧大阪外国語大学のゼミの一部から設立されました。『学生』という立場から環境問題の改善に貢献するという理念の下、大阪大学の豊中キャンパスを拠点に大学内外で環境活動を行っています。2008 年に大阪大学公認サークルとなって以来、様々な賞を受賞し、昨年 12 月の第 10 回全国大学生環境活動コンテスト「ecocon」で 5 位入賞を果たしました。

普段の活動ではメンバーが各班に分かれて所属しています。リ・リパック班、壁面緑化班、環境教育班、McK 班、シェリー班、LOHAS 班、CCC 班などの班があります。これらの班活動に加え、大学側と連携した環境対策も行っています。大学の環境対策に対して、学生か




らの働きかけがない、教員・職員と学生の連携がとれていないという問題を背景として、大学の環境対策に対して学生が評価し、提案をし、実践をして環境に良い大学を実現することを目的とした活動です。具体的には、レジ袋有料化、省エネ対策、環境報告書作成への関わり、教職学連携会議などを行っています。

GECS メンバーは「自分たちの大好きな大阪大学を環境に良い大学にしたい。」「学生が変われば大学が変わる。大学が変われば社会が変わる。」という想いを抱えながら日々活動しています。

[〈資料：GECS・CCCを知る〉](#)

| | | |
|---|--|---|
| <p>神戸大学 PEP UP (ペパップ) 石川裕史様</p> | <p>PEP UP とは、Peoples' Empowerment Partnership Upon Peace (平和と自立のためのパートナーシップ) の略で、1998 年当時、神戸大学 発達科学部准教授の太田和宏先生によって設立されました。「よりよい社会を、トモに」を vision に掲げ、学習・発信・実践をコンセプトに活動しています。</p> <p>具体的には、フェアトレードに重きを置いて、フィリピンでのスタディツアーの開催やドライマンゴーの輸入・販売を通じたフェアトレードの実践などの活動を行っています。また、「ぺぱっぷ Café」という地域密着型のカフェを運営し、「フェアトレードを、神戸の街で、より地域の人と直接接する機会を広めたい」という思いから、対話を通じた活動を行っています。その活動の中には、足湯を通じた活動などもあります。</p> <p>〈資料 : PEPUP〉</p> |  |
|---|--|---|

| | | |
|--------------------------------------|---|---|
| <p>同志社大学 DEP(デップ) 久野真由子様</p> | <p>DEP とは、同志社エコプロジェクトの略で、同志社大学において、学生・大学がともに環境問題を世界的視野でとらえ、その問題解決に向けた活動を実践していき、その成果を社会に対して還元していくことを理念とした学生団体です。「エネルギー」「廃棄物」「自然環境」の3分野に軸を置き、大学の特性を生かして多面的・継続的アプローチを行っていくことを考えています。</p> <p>DEP の活動は、大きく個別プロジェクトと全体活動に分かれています。個別プロジェクトには、GC (国際交流を通じた環境意識の向上)、Fourk (学生主導の環境事業その考案と実践)、E-pho(Web サイトで環境に根差した写真を発信)、+E (環境教育を実践し、環境に配慮できる人材を育成) があります。また、全体活動では同志社大学内の省エネ活動に取り組んでいます。大学の省エネルギー推進委員会と連携して省エネルギーに向けた活動を行い、同志社大学生に周知活動・アンケート調査を行うことで、大学の活動を学生に透明化したり、学生の意見を大学に伝えたり、大学と学生の橋渡しをしています。いかに学生へのフォロー活動ができるかというのが今後の課題です。</p> <p>〈資料 : 同志社エコプロジェクト〉</p> |  |
|--------------------------------------|---|---|

| | | |
|--|--|--|
| <p>近畿大学 FeeLink (フィーリンク) 増田紗穂様 他 4 名</p> | <p>FeeLink は、近畿大学農学部生を主にメンバーとし、「人と人、人と自然との架け橋となる」ことを目的としています。主な活動として、緑化・教材園・環境教育・ビオトープコーディネート・十津川村という 5 つのプロジェクトがあります。なかでも、緑化プロジェクトは、行政、NPO 団体、近隣住民、職員の方々と連携して活動しており、その一つとして京都市のショッピングモールである京都テルサでの活動を報告します。</p> <p>京都テルサの屋上を緑化することで、近隣住民の方に緑を身近に感じてもらえる場を提供しています。京都テルサで行われるフリーマーケットでのブース出展や屋上緑化ツアー、見学会などを通じて緑化の大切さを伝えています。また、教材園プロジェクトでは、実際に学</p> | |
|--|--|--|

内で野菜を育て、できた野菜を学内で販売し、地産地消をアピールしています。勉強会など



でつけた知識を基に、栽培計画を立て、販売までの工程を学生主導で行っています。今後の目標としては、収益を上げることと、外部農家などとかかわりを持つことを掲げています。

〈資料 : [FeeLink](#)〉

大阪府立大学
環境部エコロ助、
里環境の会 OPU
E(え)~キャンぱすの会



〈環境部エコロ助〉

環境部エコロ助は「できること・気づいたことから楽しくエコ活動」「人の心を通して環境問題を考える」「エコロ助のことを想い、それぞれの視点からデザインする」の3つを理念に掲げ、エコロ助部員から府大の学生、堺市民、大阪府民へと環境意識が根付くように活動しています。日々の活動では、環境教育、自然ふれあい、部内報 ORE!、Paper-Plan、

Re:ホッかる、りちゃいくる、パトラッシュという各企画があり、今回は環境教育について説明いたします。

昨年度は夏に狭山市内の小学校を訪問し、低学年と高学年に分けてそれぞれの年代に合わせた環境教育授業をしました。高学年の授業では、節電する理由・節電の効果・節電の方法について授業することで、節電する意味の気づきを促し、授業で学んだ内容を再確認してもらえるように、子ども達が考えた節電方法を掲示してフィードバックにも努めました。また、環境教育の新たな取り組みとして、高校生に対して、低学年への環境教育ツールであるエコレンジャーショーの手法を伝えるという活動を行いました。これにより、高校生の環境教育への関心向上や自分たちの活動を見直すきっかけとなった他、環境教育をする側を増やすという成果が得られました。そのほか、学祭や全体企画といった活動があり、年間を通じて活動しています。

〈里環境の会 OPU〉

里環境の会 OPU は、大阪府立大学中百舌鳥キャンパスをより自然豊かなキャンパスにするために、人と自然のよりよい関わり方を探り、自分なりの考えを持って自分の言葉で表現することを目指して、勉強会、野外活動、啓蒙活動を行っています。中でも、キャンパス・ビオトープ活動は、生物相の豊かな中百舌鳥キャンパス全体をビオトープと位置づけ、多様な生物がにぎわい、自然と人間活動の調和を実感できる空間の創造をめざし、大学側と提携した定期的な環境調査(生物調査・水質調査)を行っています。生物種のモニタリングや府大池の pH 測定などにより、環境保全や水質管理の方法について日々模索しています。



〈E~キャンぱすの会〉

E~キャンぱすの会では、USR (大学の社会的責任) を果たすため、大学で実践されている環境面の取り組みをまとめた環境報告書を学生主体で作

川口大輔様(環境部エコロ助)、
松浦由布子様(里環境の会 OPU)、
飯田桃子様(E~キャンぱすの会)、
玉井一生様(E~キャンぱすの会・グリーン調達WG)

成しています。学んだ知識を生かせるという点と環境マネジメントに携われるという学生側の利点があり、また環境人材を育てる場となるという大学側の利点もあることから 2011 年から始動しました。記事作成では 5 つの班に分かれており、様々な視点から府立大学内の環境活動について取りまとめています。また、環境部エコロ助や里環境の会 OPU とも協力して記事作成をしています。

報告書作成以外の活動としては、省エネキャンペーンへの参加があり、大学側からの「学生に周知したい」という要求に応じてポスターでの告知やイベントの企画、うちわ配りなどを行っています。

今後は、他団体との連携を深め、環境報告書を通して大学の環境を学生に知ってもらうことで、学生と大学のかげはしとなることを目標としています。

〈グリーン調達〉

現在、大量消費、大量生産、大量廃棄の社会を脱却し、循環型社会の形成が求められているなか、平成 12 年 5 月に「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）が制定されました。しかし、法律の中で、公立大学法人は「努力義務」と定められており、府大では未実施でした。平成 24 年度に、キャンパス環境推進会議の安全環境企画部に属する「E〜きゃんぱすの会」の学生と関係する教職員により、大阪府立大学独自のグリーン調達方針を作成したことにより、全キャンパス（中百舌鳥キャンパス、羽曳野キャンパス、りんくうキャンパス、大阪府立大学工業高等専門学校）において、試行的にグリーン調達に取り組んでいます。



グリーン調達の基本方針には、①物品の製造や廃棄の段階で、環境への負荷が大きいことを踏まえ、調達に当たっては、修理などにより長期間使用できるものを優先する、②物品等の調達に当たっては、製造、使用、廃棄までのライフサイクルにおいて環境への負荷が小さいものとする、③物品等の輸配送の段階では、環境の低減に配慮するという 3 つを掲げ、対象商品は 20 分野(紙類、文具類、納入印刷物等)に及びます。物品購入には、対象物品かどうか、大学共通での購入物品から調達できないか、環境物品を購入するかどうかなどの審査を経て可能となります。

〈資料：大阪府立大学〉

〈資料：大阪府立大学・グリーン調達の実施に向けて〉

◆総合討論

総合討論では大阪府立大学大学院の大塚耕司教授が司会を務め、大阪大学大学院の三好恵真子准教授と、事例発表した大阪大学、神戸大学、同志社大学、近畿大学、大阪府立大学の学生団体を代表して選ばれた学生 5 名とで 2013 年の世界環境デーのテーマ「Think.Eat.Save」について互いの大学の現状や今後の大学のあるべき姿について話し合いました。

総合討論は以下の内容に沿ってすすめられました。

- 1.食糧問題について授業などで触れる機会はあるか
- 2.大学内外で食糧問題に取り組む団体と関わる機会はあるか
- 3.大学生協の購買部、食堂部での食への取り組み
- 4.その他食に関する大学の独自の取り組み

総合討論は会場も巻き込んだ討論の場となり、東京で行われているキャンパス油田の活動など大学同士が連携した環境面での取り組みを大阪でもできないかという提案もありました。

学生は大学の現状や取り組みについて報告し、地産地消の取り組みや近畿大学食品栄養学科が行っているレシピを学内に提供する取り組み、TFT(Table For Two)やミールカードの活用など互いの大学の環境活動について意見を交換し、会場もそれらの取り組みの報告を受けて様々な意見や提案を出し合いました。

三好准教授は学生活動の大切さ、環境に対する取り組みの継続性の難しさについて触れられ、今回の府大環境デーのような企画の重要性を話されました。今後の展開として、2014年以降は本イベントのような様々な大学合同の企画を行うことも検討されました。

関西の大学をつなぎ、身近な環境や学生の取り組みについて考えられるイベントとなりました。



府大環境デーの参加大学